

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TOKUZOジュニアせんげん台教室			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年1月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年1月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員の人員配置を充実させている。 現場職員➡子ども2人に1人の体制で対応できるように努めている。 ・職員会議など職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで職員間のコミュニケーションを図りやすくし、同じ方向性を持って療育ができるようにしている。	職員会議の中で子ども達への関わり方などより良い療育ができるよう職員間で話し合い、共通理解の元で子ども達への関わりを行っている。 ・職員一人ひとりの知識と技術の向上を図る為に外部研修にも積極的な参加を促している。	今後も事業所内外での研修を積極的に行い、職員全員が専門的な知識と技術を高め、スキルアップしていくよう体制づくりを行う。
2	・ご家族に対して子ども達の様子をしっかりと伝え、必要な情報提供を行っている。 ・必要に応じて定期的な面談以外にも臨時に面談をしたり、家庭訪問や電話での相談を受け付け、ご家族の不安や困りごとに寄り添っていけるような体制づくりを行っている。	・管理者・児童発達支援管理責任者と現場職員でご家族との話は共有するようにし、現場職員の気づきからも管理者・児童発達支援管理責任者が保護者対応に向かえる体制づくりをしている。 ・送迎でその日の様子をお伝えするなど日頃から現場職員とご家族もコミュニケーションを図るようにしている。	今後も現場職員と管理者・児童発達支援管理責任者がコミュニケーションをしっかりと図り、全職員で支援が行えるようにしていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・こども園や保育所、幼稚園との交流ができていない。 ・並行利用をしている子どもの連携がこども園、幼稚園、保育所との間で図りにくい現状がある。	・年度初めや利用開始時に並行利用している子どもが所属している施設へ電話で連絡はしているが、そこから連携につながるケースは少ない。 ・園庭交流を受けてくれる施設がのばら学園以外に全時点で無い。	・施設側と事業所側だけでは話が進みにくいので市町村や公的団体の力を借りることができないか、地域自立支援協議会にも提案し、改善の取り組みを行っていきたい。
2	・ご家族に対してペアレントトレーニングや家族へ向けての研修会ができていない。 ・保護者会など家族が交流できる場を作ることができていない。	・事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとすると職員の技術と人員増員が必要となる。現時点では、子ども達の療育をしっかりと行うことによるマンパワーが全て取られる。(人件費も多くかかる) ・保護者間での交流を実現するには、マンパワーが多く必要となる。	・ペアレントトレーニングができる人材を確保したい。 ・安全に保護者間交流ができる体制づくりを考えていきたい。
3			